

時告げる鐘に感謝

きょう、城山の鐘まつり

延岡

時の記念日 8代目鐘守 日高さん夫妻をねぎらおう



のべおか若鮎レディから花束と記念品を受け取る日高さん夫妻

時の記念日のきょう、延岡市の城山公園鐘突(つ)き堂前で鐘まつりが開かれた。140年以上前から市民に時を告げる「城山の鐘」に感謝し、8代目鐘守の日高康彦さん(56)、真理子さん(51)夫妻の労をねぎらった。主催は延岡観光協会。

今年、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小して開催。同協会の谷平興二代表理事、読谷山洋司市長、本部長 仁俊議長ら約20人が出席した。

鐘まつりは、正午の鐘に合わせて開会。延岡城址(一)第八代鐘守と書かれた法被を着た日高さん夫妻が正午の鐘を力強く突くと、市内中心部には郷土の歴史を感じさせる重厚な鐘の音が広がった。

同協会の谷平代表理事は、日高さん夫妻にねぎらいの言葉を掛け、城山の時を告げる鐘の音が、延岡のコロナ禍からの復活の時の音になるよう心

から願いたい」とあいさつ。読谷山市市長は、延岡市民にとつて安心した気持ちになるありがたい鐘の音、改めて感謝したい。

康彦さんは、我慢の生活が続きますが、鐘の音で心落ち着かせることができれば幸い。鐘の音を継

承していくために努めていきたいと話した。

「城山の鐘」は、1878明治11年から時を告げ、現在は1日6回(午前6時、同8時、同10時、正午、午後3時、同5時)突かれています。鐘まつりは1941(昭和16)年から始まり、日高さん夫妻は2017年10月から8代目鐘守を務めている。

■城山の鐘 秋山榮雄著「民俗探訪ふるさと」365日によると、城山の鐘は旧延岡城主有馬康純が今山八幡宮に奉納したとされる。

その後、太平洋戦争中に徴発されたが、延岡市船倉町の光勝寺住職(当時)が「歴史的に貴重」警防団長らが火災報知に必要と訴え残された。現在の鐘は2代目で、1903(昭和38)年に城山の鐘をつくる会が作ったもの。初代の鐘は、内藤記念館に保存されている。



城山の鐘まつりで正午の鐘を突く日高康彦さん(きょう、城山公園)

2021.8.10